

# 山の問題は処理の広域

震災がれきの広域処理の問題点について語る池田こみち環境総合研究所副所長＝東京都品川区旗の台で



いけだ・こみち 1949年東京都生まれ。専門は環境政策。聖心女子大卒業後、東京大医科学研究所、ローマクラブ日本事務局などを経て、86年、環境総合研究所の設立に参加。著書に「みんなの松葉ダイオキシン調査」など。

# 「がれき、復興足かせ」疑問

野田政権が復興庁の発足を機に、宮城、岩手両県で発生した震災がれきの広域処理キャンペーンを一段と強力で推進し始めた。旗振り役の環境省は「がれきは安全」「復興の足かせになっている」と受け入れを迫るが、ほかに選択肢はないのだろうか。「広域処理は必要性、妥当性、正当性の観点から問題」と主張する環境専門シンクタンク「環境総合研究所」（東京）の池田こみち副所長に聞いた。（佐藤圭）

## 環境総合研・池田副所長に聞く

野田佳彦首相は、復興がれきの広域処理③雇用のについては「安全ながれきを庁がスタートした十日の確保④被災者の孤立防止 全国で分ち合って処理 記者会見で、今後の復旧と心のケア⑤原発事故避ける広域処理が不可欠 復興の重要課題として① 難者の帰還支援②の五項だ」と力を込めた。住宅再建・高台移転②が 目を挙げた。がれきにつ 池田氏は真っ先に、政

府の言う「復興の足かせ」の搬出から受け入れまで論に疑問を投げかけに複数回、放射線量を測定することになっている。「被災地に何度も足を運んでいるが、『がれき』は、同省も「サンプルがあるから復興が進まな採りしなかつた部分で、い」という話は聞かない。放射線量が高いところが被災地では、住宅再建や放射線量が高いところが雇用の確保、原発事故のないとは言えない」（適補償を求める声が圧倒的 正処理・不法投棄対策だ。がれきは津波被害を室と認めざるを得ない。受けた沿岸部に積まれる 「測定を繰り返して安全性を強調しているが、ケースが多いが、そこに実は非科学的だ。がれきを再建するかはまだ決まっていない。高台移転を全部測ることができないのは分かるが、公表さ全に障害にならない。がれきのデータでは、がれきが復興の妨げになっ れきのポリウム、採取しているかのような論調方法、なぜサンプルが全は、国民に情緒的な圧力 体の線量を代表できるかを加えているだけだ」の根拠などが不明だ」次に広域処理の妥当性 焼却炉の排ガス測定もだ。池田氏は環境・安全 サンプル調査だ。面と、経済的、社会的な 「環境省は、四時間程観点からの議論を促す。 度採取した排ガスを測定環境・安全面は住民が する方法を示している最も心配している点だ。 が、サンプル量が少なす環境省の広域処理ガイド ぐるのではないか。サンラインでは、被災地から プル量を増やして定置下

## 住宅再建・原発補償が優先

「日が落ちるとあたりは真っ暗。十一月月 たっても、まだそんな状況」と、JR石巻駅近くの商店主は嘆く。沿岸部にあるがれきの山は「視界に入れば気がめいる」といい、こう求める。「広域処理が進まないのが安全性の証明が足りないから」というならば、国が責任を持って説明を尽くしてほしい」（木）

限値を下げ、実際にどれくらい出ているかを把握しないと、汚染の程度は分からない」

池田氏は、焼却灰の埋め立て処分にも首をかしげる。放射性セシウムが「一キ当たり八〇〇〇以下であれば「管理型最終処分場」に埋め立てる計画だ。

「管理型の浸出水処理施設ではセシウムは除去できない。灰を普通のごみと同じように埋め立てる基準が八〇〇〇倍では高すぎる。どうしても埋め立てるのであれば、コンクリート製の仕切りで厳重に管理する『遮断型最終処分場』で保管するしかない」

